



GPS機能をonにして 自己評価シート作成に際して

自己評価シートの記入をお願いしています。1年間、どのような取組をしようとお考えになっているのか、ぜひシート上に表現していただきたいと思います。

ベテランの先生には釈迦に説法ですが、若い先生もいますので少々説明させていただくと、先生自身がどのようなことをやろうとしているかは、キーワードとして「南中」「生徒」「役割（校務分掌）」「キャリア」（新）を勘案した上、「今」「何を」することによって、生徒が「どうなっていく」のかを総合的に関わらせて決めていくことになります。足元を固めて、地道に一つずつやっていくことはもちろん大事なことです。そのとき「大局的、俯瞰的、な見方ができるといいと常々考えてきました。自己評価シートに記載するときには、結構大事なことでないかと思っています。

「生徒の実態」をとらえる場合を例にして考えてみます。今、現象として見えている課題があったとしたら、それを解決したり、解決の道筋を作ること考えます。そのとき考えるのは、生徒たちの未来の姿。短期的には卒業や年度末の姿でしょうが、その姿も、彼らの長い人生の通過点に過ぎませんから、もっと先、人としての生き方につながっていくものになります。そのために今やるべきことを考える作業になるわけで、言い換えれば長期的に考える必要が出てきます。TVのCMではありませんが、未来から逆算してくる感覚です。同時に、課題となることの原因もまた、目の前の現象だけを考えていたのではつかみ損なうような気がします。「俯瞰的、にというのは、一段上に視点をもっていて、そこから総合的に考える作業を言っています。

日々の授業にしても、その1回の授業だけを考えてしている先生は一人もいません。せいぜい教育実習の先生くらいではないでしょうか。

生徒につけたい力を目標に掲げ、そのための工夫をその1時間の分として実践しているわけです。校長の自己評価シートに記載し、「すばる」前号でも説明している「学校を開く」ことも、そういう視点に立ってのことだと理解いただけるとありがたいと思います。

「声に出して読みたい日本語」の著者、齋藤孝は右上のように視点の定め方を説明しています。わかりやすい説明をするなあと感じたので、参考までに載せました。例示やキーワードの使い方がうまいですね。

平面にいて足元を見ているだけでは、自分が向かっている先が南なのか北なのかさえわかりませんよね？ でも「GPS機能」を持てて自分自身を上から見下ろすことができれば、どうでしょうか。いま自分がどの位置にいて、どこに向かっているのかがわかります。それが認識できれば、どういう手段・ルートを使って最短最速で目的地に行くかを考え、工夫することができそうです。さらに自分だけでなく、ほかの人がどう動いているかまで、一目瞭然に把握可能になるのです。

（齋藤孝「勉強力」海竜社）

